

2021年2月28日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「十字架を負う」

聖書：マルコによる福音書8：31～9：1

何故、イエスは「あなたは、メシアです」と告白したペトロを叱り飛ばしたのか？それはペトロ自身に、固定化されたメシア像、キリストに対するイメージが出来上がっていたからである。自分のキリスト像にそぐわなければ、たとえイエスご自身が発した言葉であっても、それを「いさめ」てしまう。そのペトロの姿勢にイエスは怒ったのである。

ペトロは「いさめ」、イエスは「叱る」。私たちはどうか？「人の子」としてのイエスを、一人の人間としてのイエスを、私たちの救い主だと信じているのか？ ペトロはそれが出来なかったがゆえに、イエスから厳しく叱られたのである。

当時十字架は、主に国家への反逆罪に問われた者が処せられる最も重い刑であった。耐え難い苦痛と共に、さらし者にされ、見せ物にされる屈辱を伴う過酷な刑である。十字架を背負って刑場まで歩かなくてはならない。それも刑罰の一部。沿道の人々から、笑われ、白い目で見られ、なじられながら歩くその屈辱は、肉体的な痛みだけでなく、精神的な痛みを負わせるのも十字架と言うものであった。

「十字架を負う」とは、自分の徳が高められたり、偉くなったりするものではない。イエスがおっしゃった「自分の十字架を背負いなさい」とは何かを考える時に、イエスというお方が、何とたたかい、何故十字架刑へと向かわざるを得なかったのか？そのことを見ます時に、おのずとイエスがおっしゃった「自分の十字架を背負いなさい」とは何か、見えてくるかと思う。

イエスは、この世の不条理にさらされた、罪人と呼ばれる者の側に立ち、小さくされた者の側に立って、その人々を苦しめる律法に背を向け、律法を重んずる学者らを批判して来られた。…そのイエスの背中を拝する時、「自分の十字架を背負いなさい」という意味を、私たちが置かれたところから考えて行きたい。受難節の折に。(神谷)